

# KYO Wave

キョーウェーヴ

2021 SPRING



◆巻頭特集

## きもの産業のコロナ禍 パート2

経営者インタビュー

「コロナ禍を乗り切るために  
2020秋冬」

2020着物に世界を映す展覧会

IMAGINE ONE WORLD  
KIMONOプロジェクト

全国和装関連企業  
売上高ランキング



経営者インタビュー

# コロナ禍を 乗り越えるために 2020秋冬

取材・文

株式会社信用交換所京都本社 松井敦史

## 〈取材先（順不同）〉

結城紬製造卸

奥順株式会社（茨城県結城市）

奥澤 順之 専務

呉服卸

外市株式会社（京都市下京区）

井上 俊郎 社長

呉服卸

株式会社丸上（東京都中央区）

上達 功 社長

呉服卸

千切屋株式会社（京都市中京区）

高見 保 社長

呉服総合加工

株式会社ブルミエール（京都市下京区）

吉野 智博 社長

呉服小売チェーン

株式会社すずのき（東京都渋谷区）

高田 陽一 社長

呉服小売チェーン

株式会社やまと（東京都渋谷区）

矢嶋 孝行 社長

呉服小売

株式会社福田屋呉服店（栃木県宇都宮市）

佐々木英典 社長

## 結城紬製造卸 奥澤 順之 専務



—コロナ禍における売上状況を教えてください。

奥澤 「4月～6月40%減、7月～9月38%減、10月～12月6%増です。4月以来、催事の中止が相次ぎました。川下、川中からの仕入れ・受注は止まつたような状況が夏場まで続きました。秋に入り、ツアー催事に参加し、催事売上が持ち直しましたが、現品の仕入れ・受注は厳しいままです。それでも美しいキモノの2020年秋号で結城紬の特集をいただいたこと、11月に人気テレビ番組（日本テレビ系列、笑ってコラえて）で取り上げていただいたことに反響もあり、11月、12月は前年実績を上回ることができました」。

—コロナ禍で新たに取り組んだことはありますか

奥澤 「Webの活用を広げました。ITの活用で組織やビジネスモデルの変革を図るDX（デジタルトランスフォーメーション）が話題ですが、意識的にその活用を強化しています。ズームでお客様との

商談、インスタライブで消費者に結城紬について解説と利用してきましたが、商品の魅力をより多く人に伝えるという点においてまだまだ可能性はあると思います」。

—産地の生産現場の状況はどうですか。

奥澤 「工場や各工程の職人さんへの発注はコロナ禍前から行っていた分もあり、春先はまだ現場の仕事量はありましたが、流通が止まり私どもの在庫も積み上がるなか、従来通りの発注を続けることが難しくなりつつありました。検討を重ねた結果、従来の“適時発注”から“計画生産”への変更を決めました。具体的にはこれまでの在庫増減による発注を見直し、予め年間生産数量を決め、年間スケジュールに基づき発注を行うことになりました。コロナ禍で減産に至ってしまった工房では一体どこまで仕事が減るのか、いつまで減産が続くのかと不安が大きかつたと思います。計画生産で一年の発注量を確定すれば、幾分か不安を減らすこともできるでしょう。7月にすべての工房、職人さんを訪れ、説明に廻りました。計画生産への移行については、工房、職人さんも“こちらも前もって計画を立てることができる”と受け入れていただけました」。

—今後の産地の見通しについて教えてください。

奥澤 「流通は売れないと仕入れないが通用するかもしませんが、私たち産地はそういうわけにはいきません。私たちが発注を止めてしまうことは、工房や職人さんの生きる糧を止めることになります。廃業の誘引にもなりますし、結城紬が市場から消える事態にもつながりかねません。結城紬の生産インフラは機械ではなく手業です。人から人へ受け継がれていくものであり、一度失つてしまふと減ることはあっても増えることはないのは火を見るより明らかです。現に糸取りから織まですべてが手仕事である本場結城紬の年間生産数量は千反を割っており、糸取り職人の確保、養成も年々厳しくなっています。工房、職人さんひいては技術を守るために発注を続けることに尽きます。そのためにもより良い商品をつくり、より多くの人にその魅力を伝えていきます」。



## 呉服卸 外市 株式会社 井上 俊郎 社長

—コロナ禍における売上状況を教えてください。

井上 「当社は緊急事態宣言下の4月から

営業時間の短縮、時短勤務、交替出勤を行っていますが、営業社員においては6月からは通常勤務に戻し、このコロナ禍を乗り越えるべく取り組んできました。売上状況は、4月は60%減、5月が80%減と落ち込みました。6月は年間最大級の



せんが、私たち産地はそういうわけにはいきません。私たちが発注を止めてしまうことは、工房や職人さんの生きる糧を止めることになります。廃業の誘引にもなりますし、結城紬が市場から消える事態にもつながりかねません。結城紬の生産インフラは機械ではなく手業です。人から人へ受け継がれていくものであり、一度失つてしまふと減ることはあっても増えることはないのは火を見るより明らかです。現に糸取りから織まですべてが手仕事である本場結城紬の年間生産数量は千反を割っており、糸取り職人の確保、養成も年々厳しくなっています。工房、職人さんひいては技術を守るために発注を続けることに尽きます。そのためにもより良い商品をつくり、より多くの人にその魅力を伝えていきます」。



井上 「18年9月に開催された『きものサミット in 京都』で業界の変更を発表し、支払手形サイトの短縮（6カ月→3カ月）を発表し、11月支払い分より実施しました。

### 株式会社 丸上

### 上達 功 社長

### 呉服卸

井上 「当社は和装8割、非和装（洋装・宝飾ほか）2割の売上比率ですが、洋装よりも和装が苦戦しています。フォーマルシーンの自粛が続いているため着用機会そのものが減つてしまつたことが大きいです。厳しいなかでも、高額商品の動きはいいです。ヘビーユーザーの方たちが、緊急事態宣言で外出・買い物を我慢したことでイイものを欲してくれたとも聞いています。

一 アイテム別の状況はどうでしょうか？  
井上 「当社は和装8割、非和装（洋装・宝飾ほか）2割の売上比率ですが、洋装よりも和装が苦戦しています。フォーマルシーンの自粛が続いているため着用機会そのものが減つてしまつたことが大きいです。厳しいなかでも、高額商品の動きはいいです。ヘビーユーザーの方たちが、緊急事態宣言で外出・買い物を我慢したことでイイものを欲してくれたとも聞いています」。

一 このコロナ禍のなか9月に全仕入れ先に対し、支払い条件の変更を発表し、支払手形サイトの短縮（6カ月→3カ月）を発表し、11月支払い分より実施しました。



井上 「18年9月に開催された『きものサミット in 京都』で業界の変更を発表し、支払手形サイトの短縮（6カ月→3カ月）を発表し、11月支払い分より実施しました。

一 コロナ禍における売り上げ状況を教えてください。

上達 「売上は4月～5月は80%減、6～8月は10～20%減、9～10月はトータルで前年並、11月は15%減になりました。10月の月初に東京都立産業貿易センター浜松町館で『結社70周年記念催事』を行いました。正直、この時期に大型会場で売り出しを行つていいのかと悩みましたが、同会場は今年9月に開業したばかりで会場の広さは900畳以上で約16分毎に空気が入れ替わると聞き、感染拡大防止対策を徹底して行つた上で開催し、成功裡に終えることができました」。

一 売り出し『秀裳苑展』を行つていますが中止したことで50%減となり、7月～9月は持ち直しましたが前年の20%減の水準でした。秋の実需シーズン、10月はほぼ前年実績と同数の展示会に参加・開催することができ、ほぼ前年並みの売り上げができました。11月は15%減でした。秋の展示会を振り返りますと、集客は全体的に苦戦しています。但し、密にならないようお客様の時間別分散を徹底したことと、お買い上げ率が上がり、客数不足をカバーできた催事もありました」。

### 一 アイテム別の状況はどうでしょうか？

井上 「当社は和装8割、非和装（洋装・宝飾ほか）2割の売上比率ですが、洋装よりも和装が苦戦しています。フォーマルシーンの自粛が続いているため着用機会そのものが減つてしまつたことが大きいです。厳しいなかでも、高額商品の動きはいいです。ヘビーユーザーの方たちが、緊急事態宣言で外出・買い物を我慢したことでイイものを欲してくれたとも聞いています」。

一 今後の見通し、取り組みについて教えてください  
井上 「当社は2021年に創業160年の節目を迎えます。6月に『秀裳苑展』を、7月に祇園祭催事を行う計画で、それに向けて魅力ある商品をしつかりと準備します。これから問屋業はますます差別化が求められるでしょう。いくら品揃えが良くても、どこの問屋も同じような商品を並べていては魅力がありませんし、値段だけの競争を繰り返していくは各社が疲弊するだけです。そのためにも今まで以上にメーカーさんとオリジナル商品をつくり、差別化した商品で勝負していくかなければなりません。そしてお客様に魅力ある提案ができるよう企画の強化を図ること、そこには社員一人一人の商品知識、提案力のスキルアップも不可欠です」。

一 異業種でもコロナ禍で人ととの接觸を抑制することからもデジタルツールの利用が進みました。  
上達 「バーチャルツールもそうですが、当社でもその活用を強化しました。5月にお取引先向けのYouTubeチャンネルを開設し、第一弾では6月の売り出しの案内を兼ねて、当社からお取引先様にコロナ禍を乗り越えようとメッセージを発信しました。こちらは千回以上の視聴回数を得て高い反響を得ました。また10月には公式ホームページをリニューアルしました。

一 同催事では一丁を駆使した取り組みが業者間で話題になりました。  
上達 「ご来場いただけないお客様に対し、360°バーチャルツールという技術を使い、売り場の様子を限定公開しました。具体的にはお客様のスマホ、タブレット、パソコンと当社会場をつなぎ、遠隔地からでも催事商品をご覧できるようにしたのです。ビデオ通話機能を使い商談も行い、実際にこのバーチャルツールでお取引もできました」。

かねばなりま  
せん」。

—コロナ禍で  
商品の生産が  
減るなか、問  
屋業のビジネ  
スも問われて  
くるかと思いま  
す。



上達「今、多くの産地では生産が激減していると聞きます。良い商品がなければ業界全体の魅力が削がれてしまいるのでこの状況に憂慮しています。私たち問屋でできることは、良い商品を取り揃え、お客様（小売店）に信頼していただき、商品をつなぐことです。平成時代、問屋の数が多すぎたことから、品質よりも価格や付帯サービスで競ってきた感がありますが、新商品が減っていくこれからは、商品そのものの魅力で競う正しい商いに回帰していかねばなりませんし、商品の絶対数が減れば必然的にそうなるかと思います」。

#### —先行き見通しについてどう考えますか？

上達「コロナ禍がいつ終息するのかはわかりませんが、わかっていることは当社の企業活動はコロナ禍の間も、コロナ禍が終わった後も続くということです。そのため、まずはコロナ禍が何年続いてもやつていける体制を整えました。リストラはしていません。雇用調整も最低限に留めました。そうすることで仕事量の回復にもつながりました。当社の平均年齢は35歳です。若い人材はまだ未来があります。『熱量』、『折れない心』そして『若さ』といった強みを大切に前を向きます」。

## 呉服卸 千切屋 株式会社 高見 保 社長

—コロナ禍における売上状況を教えてください。

高見 「4月～6月40%減、7月～9月30%減、10月～11月20%減で推移しました。当社の売上は百貨店が55%、専門店45%でチエーン店はありません。4月、5月は緊急事態宣言で百貨店が休業したことが堪えました。6月は毎年、羽衣染織逸品展という当社の看板催事を行っていますが秋に延期した影響が大きかったです。7～8月は都市部

では百貨店の消費者催事の中止や縮小があり、地方の催しも苦戦しました。9月は月初の売り出しを「新社屋竣工記念展」とし催しました。商品は一年前から準備に取りかかり、この売り出しを目標に社員のモチベーションを上げてきました。結果、月初の売り出しとしては前年比160%の実績ができました。

秋の実需催事はほぼ前年並みの開催ができましたが、都市部よりも地方が苦戦しました。地方では都市部の者が売り出しうることに対し、コロナへの不安があつたようにも思いました。多くの催事は集客段階で苦戦しましたが、お買い上げ率が高く大きな落ち込みには至りませんでした」。

#### —旧社屋の解体から新社屋竣工まで約2年かかりました。

高見 「当社は295年前に高倉通沿いのこの土地で呉服問屋を創始しました。旧社屋は明治期の建造で歴史ある建物でしたが雨漏りがあり、いずれ建替工事が必要でした。玄関の建具や中庭の石、調度品など旧社屋のものを数多く再活用しました。当社は2025年に創業300年の大きな節目を迎えます。それを目前に体制を今一度整え、新たなステージに挑戦するという意味もありました。おかげさまで新社屋で催事を行いたいという話も多数いただいています」。

—今後、問  
屋業とし  
て、見通し  
と等、教え  
てください。

高見 「当社  
は長年、染  
織作家の才  
リジナル  
を強みと  
し専属作  
家を抱え、

商品の差別化を図ってきました。作家先生には「作りたい

もの」があります。私たちはこんなものをつくって欲しいと要望しますが、それは作品の50%に反映してくれればいい。あとの50%は作家先生の感性でつくってもらっています。だからオリジナル性が生きてきます。業界から染織作家が減る中、そのオリジナルはより差別化の図れる商材になりますが、そのためにも作家先生を守らなければなりません。春はコロナ禍で5月の日本伝統工芸展の近畿展も中止になり、6月は羽衣染織逸品展を延期したことでの作家先生は作品発表の場を失いました。私たちができるすることは仕事を継続して出すことです。現実的に在庫は溜まる一方でしたが、それは販売のプロである私たちがなんとかすればいいことです。それにお客様は、10の商品から選ぶよりも、10の商品から選んだほうが楽しいに決まっています。そう考えれば、在庫が積み上がることも決して悪くはない。問屋として産地の魅力ある商品を多数用意し、お客様に提案する。この姿勢は変わらずに創業300年に向けて歩み続けます」。



提供 竹中工務店

## 呉服総合加工 株式会社 プルミエール 吉野 智博 社長

—コロナ禍における売り上げ状況を教えてください。

**吉野** 「当社は仕立縫製加工がメインになります。月間受注高で5～6月が30%減、7～10月が約20～25%減、11月が30%減です。特に落ち込みが大きいのは振袖です。昨年5月～11月まで約3千反の受注がありましたが、今年の同期間は約2千反と33%減。成人式がどうなるかわからないなか、購入・レンタルを見送った新成人も多かったと察します。一方、同

期間中、当社のメインのオシャレ着は昨年同期8000反が今期6500反と20%減にとどまっています。今のコロナの感染拡大状況、飲食や観光など異業種やアパレルの状況を思えば健闘しているとさえ思います。フォーマル需要が落ち込むなか、きものを楽しむ富裕層が消費してくれているのではないかでしょうか。

—コロナ禍において仕立、加工における問題等はありましたか？

**吉野** 「当社の仕立加工はベトナム工場9割、国内和裁1割の



比率になります。ベトナムでは3つの工場と委託契約していますが、9月に1つの工場から「物量が減っているので契約を見直したい」と申し出があり終了しました。ベトナム工場での加工は一定の仕事量がなければビジネスとして維持できませんし、今後も受注減少が続ければ問題が生じるかもしれません。一方、国内和裁の方は元々が少量でしたので特段、問題は出ませんでした」。

—コロナ禍による落ち込みをどう考えますか？

**吉野** 「きもの産業はコロナだからといって苦境に立たされたわけではないのです。コロナ禍が騒がれる昨年の今も落ち込みが続き、厳しい状況に直面していたのです。ですから、コロナのせいで落ち込んだ、コロナ禍だからどうする？という議論はちがうのではないかと考えます。平成の30年間にこの産業全体が落ち込み続けていたことを踏まえて、コロナを言い訳にせず、業界の問題点と向き合わなければなりません。私はコロナ禍により、このままではいけない、シフトエンジしなければならないという理解が広まつたのは業界にとつて良かったとさえ思います」。

—どのようなシフトチェンジが必要と考えますか？

**吉野** 「現状、多くの先はきもので儲かっていません。いや、何年も儲かっていません。京都では不動産等の資産活用で本業を支え、事業を作り立たせている先が多いと聞きます。当社も資産を活用した不動産事業の計画を立てていましたが、このコロナ禍でシフトチェンジし、万が一に備えてキャッシュ化しました。コロナ禍で不動産も資産価値が下がりましたし、何が起きるかわかりません。本業のきものができないよう努めることが必要でしょう。そのために組織体、営業体制、収益構造等、変えなければいけないことは多々あります」。

## 呉服小売チエーン 株式会社すずのき 高田 陽一 社長

—コロナ禍における売上状況を教えてください。

**高田** 「当社は現在33店舗（和装29、毛皮4）展開していますが、緊急事態宣言下は「ディベロッパーの要請で約80%の店舗が休業または営業時間の時間短縮を余儀なくされました。4月、5月の売上高はトータルで約40%減となりましたが、6月以降は毎月次前年実績を上回っています」。

—6月から前年実績を上回った要因はなんでしょう？

**高田** 「緊急事態宣言により休業している間、お客様との絆づくりを推進した点が大きいとみています。当社ではお客様との関係性を深めるサービスについては、各店舗の自主性を優先していますが、休業中にお客様のお宅に訪問したことは成果が出ました。訪問といつても販売ではなく、手づくりマスクを配布する等のご機嫌伺い（お客様との絆づくり）を中心としたのですが、大変喜んで頂きました。また商品面では、空気清浄機の取り扱いを始めたところ想定以上の販売ができ、夏の浴衣販売の落ち込みを埋めることができました」。

—秋の売り出しはどうでしたか？

**高田** 「夏から秋にかけて東京を会場とし



た店外催事を3回行いました。集客は前年比50%水準と大変苦労しました。コロナ禍が続くなかった茨城、千葉、埼玉、神奈川から県を跨いだ移動を避けられたお客様が多かつたと思います。但し、売上は90%の水準と大きな落ち込みには至りませんでした。お買上率、お客様単価が大幅に上がったことが要因です。



#### —成人式中止・延期リスクのある振袖はどうですか？

**高田** 「振袖の販売数量は前年比2割ほど落ちています（取材＝2年11月末日）。但し、お買上率（成約率）は例年より上がっています。3密を避けるため来店時間のご予約をお勧めしたことがその要因でしょう。また当社は、振袖を成人式のためのイベントコスチュームではなく、家族の想いを受け継ぐ大事な記念日として、ママ振りを推奨しております。今のところ、成人式中止・延期に関しての大きな問題は発生しておりません」。

#### —今後の見通し、取り組みについて教えてください

**高田** 「コロナ禍で店頭催事ともに客数が減っていますので、お客様を増やす努力を従来以上に行つていかねばなりません。呉服小売業は、店頭に次々とお客様が訪れてくれるわけではありませんが、魅力ある店づくりを行い、お客様に足を止めてもらい、新規のお客様との接点がより多く持てるよう

考えています。その次には店頭で接点のあつたお客様を再来店につなげることが大切です。当社のデータでは初来店からリピーターとなる率は10%～15%程度です。客数が減るトレンドの中、顧客化率を上げいかねばなりません。そのため当社では着る機会の提供に注力しており、成人式を終えに当社では着る機会の提供に注力しており、成人式を終えた新成人が主役の振袖ファッションショーをはじめとした、きもの着用イベントを企画提案しています。大変な時代を迎えたが、新規のお客様を創る、きものを着る人を増やすことを最も大きな目的として今後もやっていきたいと思います」。

## 呉服小売チエーン 株式会社 やまと

矢嶋 孝行 社長

#### —コロナ禍における売上状況を教えてください。

**矢嶋** 「緊急事態宣言下、当社では最大97店舗（103店舗中）が休業し、4月、5月の売上は前年同月比10%の水準でした。6月3日に全店舗再開しました。毎年春に開催する年間最大級の売り出し「美饌会」は秋に延期し、9月までは店頭中心の商いになりました。7～9月は花火大会や夏祭りの中止によりゆかたが苦戦しましたが、店頭売上高は8月で10%減、9月は40%増まで伸びました。10月から12月にかけて催事「美饌会」を行いましたが、多くの会場で集客苦戦し、結果、目標の70%に終わりました。但し、良かった点もあります。キャンセル率が非常に下がり、接客に対するクレームはほぼありませんでした。当社ではお客様視点での販売に取り組んでおり、その成果と考えます。秋の売上げは店頭・催事を含め、10月ほぼ前年並、11月30%増、12月20%減で推移しました」。

#### —コロナ禍で取り組んだことなど教えてください。

**矢嶋** 「緊急事態宣言下、全社員1000人を対象にZoom

を使ったオンライン研修「やまと品質向上研修」を計8回行いました。初回に私から全社員に話したのは『これは変化対応のチャンスです』ということでした。今、苦しいかもしれないが変化に対応していきましょうと。そして、やまととの基本理念・ビジョン・ミッションについて再確認しました。やまとは、きもので心躍る夢を実現していく会社です。きものはどんな未来を創るのか、どんな未来を創るために集まった集団なのか、今一度全社員と向き合いました。なぜ、私たちはきものを売るのでしょうか？私たちは何のために催事をやるものでしょうか？社員はどう考えているのか？このような本質に社員全員で立ち返り、考える機会になりました。

営業面では大島紬、結城紬の店頭での販売促進を行いました。6～9月の店頭での大島紬販売点数は前年比70%増と結果が出ました。割引などの営業施策に頼ったわけではありません。社員と『なぜ大島紬を扱うのか』を深堀りしたことが大きかったと思います。社員がお客様に大島紬を提案するにあたり、産地の魅力的な歴史やストーリーといった商品知識はもとより、なぜ扱うのかについてしっかりと話し合つたことで結果につながりました。店頭できちんと売れる店づくりを行わなければなりません。社員の意識改革もそうですが、立地に合わせた品揃えの徹底や、タイムリーな商品の見直しなどまだまだやれることがあります。

#### —コロナ禍でできものビジネスも大きく変わります。

**矢嶋** 「コロナ禍により



パラダイムシフトが起きたと考えます。消費者の行動、考え、消費の在り方も変わり、きもの販売において従来の方法は今後、通用しないでしよう。ただ、私たちも立ち止まることができました。コロナがなければ従来と同じような考え方で同じような繰り返しをしていたかもしれません。コロナで立ち止まり、見つめ直し、考え直す」



「宇都宮市の成人式は直前に延期になりました。それに伴う混乱・トラブル等はありましたか？」

佐々木「宇都宮市が成人式（令和3年1月10日予定）の延期を決定したのは12月30日でした。31日の大晦日に急遽社員に出席してもらい、すべてのお客様に弊社から電話を入れました。新たな日程までレンタルの延長をすること、新たな日程でも選んだ振袖の着用ができること、お渡ししていた振袖一式を店舗で預かることが可能など、大晦日でしたのでほとんどのお客様が在宅で連絡がつき、混乱は生じませんでした」。

「宇都宮市の成人式は直前に延期になりました。それに伴う混乱・トラブル等はありましたか？」

佐々木「宇都宮市が成人式（令和3年1月10日予定）の延期を決定したのは12月30日でした。31日の大晦日に急遽社員に出席してもらい、すべてのお客様に弊社から電話を入れました。新たな日程までレンタルの延長をすること、新たな日程でも選んだ振袖の着用ができること、お渡ししていた振袖一式を店舗で預かることが可能など、大晦日でしたのでほとんどのお客様が在宅で連絡がつき、混乱は生じませんでした」。

「宇都宮市の成人式は直前に延期になりました。それに伴う混乱・トラブル等はありましたか？」

佐々木「宇都宮市が成人式（令和3年1月10日予定）の延期を決定したのは12月30日でした。31日の大晦日に急遽社員に出席してもらい、すべてのお客様に弊社から電話を入れました。新たな日程までレンタルの延長をすること、新たな日程でも選んだ振袖の着用ができること、お渡ししていた振袖一式を店舗で預かることが可能など、大晦日でしたのでほとんどのお客様が在宅で連絡がつき、混乱は生じませんでした」。



「コロナ禍における売上状況を教えてください。」

佐々木「4～6月の四半期が30%減、7～9月が20%減、10～12月が10%増で推移しました。当社の売上比率は振袖50%、一般呉服（催事）30%、店頭20%となります。振袖のお客様が減らなかつたので9月までの落ち込みを抑えられました。また緊急事態宣言でお客様の来店が減った期間を利用し、社内業務のデジタル化を進めました。営業と店頭スタッフにi Padを支給し、顧客カルテ・催事実績・来店予約などのデータ管理の共有化を推進、あわせて公式HPをフルリニューアルしました。結果、Webからの振袖予約は前年よりも増えました」。

「宇都宮市の成人式は直前に延期になりました。それに伴う混乱・トラブル等はありましたか？」

佐々木「宇都宮市が成人式（令和3年1月10日予定）の延期を決定したのは12月30日でした。31日の大晦日に急遽社員に出席してもらい、すべてのお客様に弊社から電話を入れました。新たな日程までレンタルの延長をすること、新たな日程でも選んだ振袖の着用ができること、お渡ししていた振袖一式を店舗で預かることが可能など、大晦日でしたのでほとんどのお客様が在宅で連絡がつき、混乱は生じませんでした」。



「宇都宮市の成人式は直前に延期になりました。それに伴う混乱・トラブル等はありましたか？」

佐々木「宇都宮市が成人式（令和3年1月10日予定）の延期を決定したのは12月30日でした。31日の大晦日に急遽社員に出席してもらい、すべてのお客様に弊社から電話を入れました。新たな日程までレンタルの延長をすること、新たな日程でも選んだ振袖の着用ができること、お渡ししていた振袖一式を店舗で預かることが可能など、大晦日でしたのでほとんどのお客様が在宅で連絡がつき、混乱は生じませんでした」。



自然を師に、  
正統を極める。

松濤

しょうとう

奥田元宋画伯書

Produce by Hiroyuki Hashimoto

自然に学び伝承する心。

染と織二千年の手技。

それは、惜しみなく心と手をかけた美の結晶。

先人達の守ってきたものを絶やすことなく継承し、

また、未来へと残す「松濤」。

正統はここに極み、

またここからはじまる。

紫 峯

株式会社

〒602-8202 京都市上京区大宮通一条上ル西入  
電話 075-432-5884

# ガラス工芸作家 石田征希氏 特別対談

ガラス工芸作家

## 石田 征希 氏

一九四三年、大阪に生まれる。一九八五年、石田亘と結婚後、ガラス工芸パート・ド・ヴェールの研究を始める。後、一乗寺にガラス工房設立。

一九九三年、日本伝統工芸展初入選。一九九四年、「石田亘・征希パート・ド・ヴェール展」を初個展後、京都・大阪・横浜高島屋、銀座和光ホールなどで例年個展を開催。二〇〇〇年 日本伝統工芸近畿展京都新聞社賞受賞。二〇〇六年、京都工芸美術作家協会展(京都の工芸・今)出品(京都・高島屋グランドホール)。「石田亘・征希・知史作品展(京都・常寂光寺)」。二〇〇七年、日本伝統工芸近畿展日本工芸会賞受賞。二〇〇八年、大阪府立弥生文化博物館・秋季特別展。二〇〇九年、伝統工芸諸工芸部会展日本工芸会賞受賞。二〇〇一年、日本伝統工芸近畿展鑑査委員。現在、公益社団法人日本工芸会正会員。

株式会社橋本テル織物／株式会社紫峯  
代表取締役社長

## 橋本 博之 氏

昭和三十年四月(株)橋本テル織物創業者・前社長、橋本昭雄氏の長男として京都市に生まれる。西陣の産地間屋修業の後、(株)橋本テル織物入社。取締役を経て、平成十年一月、同社社長に就任。(株)紫峯の社長を兼任。西陣織メーカーとして帯地製造を手掛けるとともに、独自の美意識を追求したもの作りに挑戦し続け、主にアジア、ヨーロッパの刺繍に着目し、時代にあつた織物や刺繡などの製作に積極的に取り組む。



## パート・ド・ヴェール、

## 現代に生きるガラス工芸の表現。



橋本 先生の作品との出会いはもうかれこれ三十年前くらいになるでしょう。初めて出会ったとき、そのピュアで温かな表情に一目惚れしました。

石田 ありがとうございます。

橋本 先生のガラス技法はパート・ド・ヴェールですね。創作を始められたきっかけは何だったのでしょうか？

石田 もともと主人の石田亘が、アール・ヌーボー全盛期のアマリック・ワルター

のガラス工芸作品を見て、自分の創作の工房を始めたのがきっかけでした。私も強く惹かれて、それから一人で長く研究を重ねてきました。

橋本 そうでしたか。私もワルターやガレなどが好きでコレクションしています。特にパート・ド・ヴェールの技法で作られたガラス工芸は、ガラスという硬質な素材でありながら、手に優しく馴染む感触がいいですね。

石田 心に染み込むような柔らかな光が、内側から放たれているような感じが素敵でしょ。それがパート・ド・ヴェールという技法の持つ魅力ではないでしょうか。



橋本 ところであらためてお聞きしたいのですが、パート・ド・ヴェールとはどういったものなのでしょう？

石田 古代ヨーロッパからある技法です。有名なのはやはり、アール・ヌーボー時代に活躍したアルジイ・ルソーや、ワルターなどの作家たちの作品ですね。

作り方は型の中にガラスの粒を糊で練って入れ、型ごと焼成し、また型を壊してガラスを取り出すという、手間のか



型から割って取り出し、加工をする



彫ったところに色ガラスを入れる工程

かるとしても非効率的な技法です。けつこう力のいる仕事で、毎日毎日、格闘している(笑)。

橋本 格闘ですか？(笑)。確かに大きな作品になると型は重くて、しかもガラス自体はデリケートで繊細な素材ですから、想像するより大変な作業でしょうね。

石田 ええ、ほぼ力仕事です(笑)。



橋本 パート・ド・ヴェールという言葉も少し耳慣れない言葉ですが。

石田 パート・ド・ヴェールとは、元はフランス語で「ガラスの練り粉」という意味です。

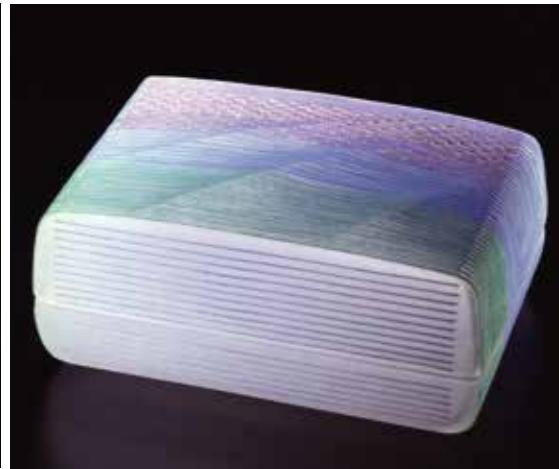
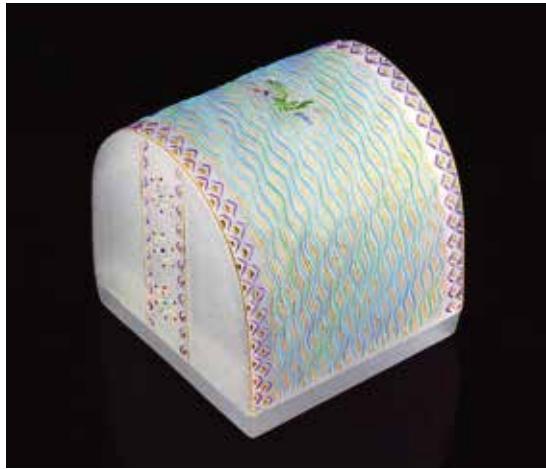
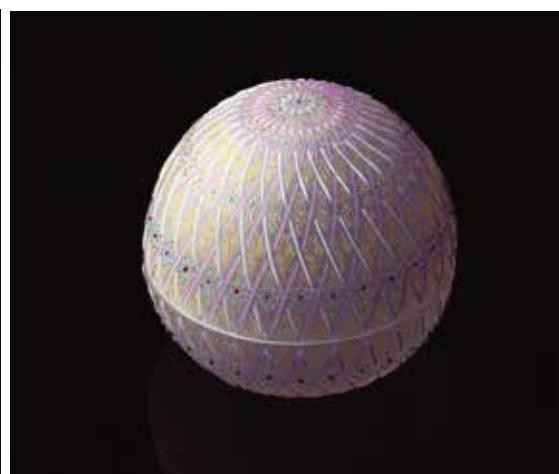
橋本 日本にも古くからその技法はあるのでしょうか？

石田 もちろん日本にも伝わっています。古代には勾玉がそうでした。平安時代、春日大社の宝物「金地螺鈿毛拔形太刀」にも、螺鈿の中にパート・ド・ヴェールの技法で作られたと思われるガラスがあります。一〇一七年、人間国宝の北村昭齋先生と一緒に、知史が復元模造事業に携わりました。

それと、一〇〇九年でしたか、亘が京都府指定無形文化財保持者に認定されたとき、日本語で「鉄込み硝子」という名前を作っていただきました。

橋本 そうだったのですか。技術が発達した現在においても難しいこの技法は、取り組む方が少ないと思います。小さな技法ですね。

## 透明で柔らかな光をまとった、京都ならではの和のデザイン。



左上／合子『銀の露』巨作 右上／合子『春來たる』征希作 左下／笛『せせらぎ』征希作 右下／笛『湖上夕照』知史作

橋本 技法もさることながら、私が感動するのは、先生の作品にある、和の美意識です。それはやはり、日本人ならではの感性でしょうね。そしてこの京都という地で創作されているからでしょうね。

石田 はい。京都ならではの伝統を感じていただければ嬉しいです。年月を重ねて来たからこそ持つ、柔らかさや、温かさ、気品、そういう目には見えない、大切な空気感のようなものを作品に表現したいと思いながら制作してきました。

橋本 それが、和のイメージと重なつて表現されるのかもしれませんね。日本には正倉院文様や有職文様など、完 成度の高い、しかもそこに意味を持つ文様が伝えられていますからね。

橋本 ええ、きっと橋本さんの着物や帯作りも同じだと思いますよ。

橋本 そうですね、おっしゃる通り、着物や帯の創作も同じかもしれません。先生の作品は西陣の織物にとても似ている気がします。

今日、先生が着ていただいている着物と橋本 褒めていただきて光榮です。伝統を大切にしながらも、現代に合うもの創りを目指しています。

石田 素敵ですね。夏にぴったりですね。都会的でモダンなイメージの中に、流れの曲線がふわりとした風のようで。帯の色もなんともいえない優しい色です。

橋本 褒めていただきて光榮です。伝統を大切にしながらも、現代に合うもの創りを目指しています。



制作の話が尽きない石田氏と橋本氏



橋本 ガラスにこんなに豊かで自由な色彩があるなんて本当に驚きました。

石田 特に和のデザインをするときには、一色一色が大切です。

橋本 本当に流麗な色彩表現ですから

橋本 ガラスを数種類使うことで、ほかのガラスには無い複雑なグラデーションや情感ある水彩画のような色彩を創り出すことが出来ます。

石田 私は上品な砂糖菓子のような可憐さや色合いなどが好きです。

橋本 そうですね。私のもの創りにおいても色彩計画はとても重視しているファンタジーです。

石田 それと、表現において色も大変重要な要素だと思います。

橋本 そうですね。私のもの創りにおいても色彩計画はとても重視しているファンタジーです。



橋本 刺繡ですか？

橋本 そうです。同じ絹糸でも、刺繡糸で精巧な線を丁寧に表現することでパート・ド・

ヴェールのガラスの美しさを織でイメージすることができます。

先生の文様のラインの立体感も同時に表せました。そして色を重ねていくことで、織物なのに、どこか透明感のある都会的な作品に仕上がったと思います。

変わりゆくものと、変わらないもの。

## 時代を超えて継承される美しさ。

橋本 ところでご主人の亘さん、ご子息の知史さんと、ご一家がアーティストというには珍しいですね。

石田 試行錯誤しながら親子三人による作品展を開催してきました。

橋本 ご主人の亘先生は白を基調にした格調あふれる文様の世界、征希先生は女性らしい繊細で可憐な色彩やフォルム、知史先生はエッジの効いたグラデーションと躍動感あふれる造形。違いがはつきりとわかります。

石田 同じパート・ド・ヴェールという技法を使いながらも、それぞれの表現が違うのが面白いですよ。

橋本 伝統はどこか奥底の方で繋がつていて、けれどもの作りのスピリットは、やはり時代に合わせてどんどん変化していくものだと思います。

石田 そうかもしれません。アートや工芸は時代と共に感されてこそ、残るものだと思います。

橋本 パート・ド・ヴェールというガラス工芸も私たちの作る織物も、時代に合う形を変えながら、時代を超えて、受け継がれていくものかもしれません。



石田知史氏と一緒に



### 松涛居

株式会社 橋本テル織物／株式会社 紫峯  
京都市北区大宮駅谷10-31 TEL.075-493-0001

2020-2021

# JOTARO SAITO

KIMONO STYLE  
COLLECTION

*Reflections of floral* 花の反射

【演出】伊藤太一、田中成子 (U-Guild)  
【ヘア&メイクアップ】鎌田由美子 (Shiseido)  
【着付け・スタイリスト】吉村澄子、仲山裕子、千秋瑠璃  
【プレス】佐藤恵子、徳永礼子 (PROSPERE)

【MODELS】

Karin 黒田瑞貴 源崎トモエ 中田早保  
麻咲子 結花子 玲奈 中嶋タカシ 夏秋カミル



[www.jotaro.net/](http://www.jotaro.net/)





# 伝統と革新が融合した 「産地直送きものSPA」



株式会社 いつ和

## 心の琴線に触れる仕事を志す。

きもの産地として、1200年以上の歴史を持つ新潟県十日町に本社を構える株式会社いつ和。商品企画から販売・きもの手入れに至るまでの工程を一貫生産・管理する呉服製造小売業で、令和2年末時点で全国約70店舗をグループで展開する。地元の呉服問屋に就職後、40歳で独立、平成8年2月に十日町の貢継問屋を設立したグループ代表の阿部昇社長（昭和30年10月生）に話を聞いた。



代表取締役社長  
**阿部 昇 氏**

—これまでの経営方針をお聞かせください

**阿部** 十日町の伝統を受け継ぎ、「人でも多く、一度でも多く、きものの姿を増やしていく」ことを理念に、今まで歩んできました。現在、SPA（製造型小売業）として直営店網を持ち、オリジナルブランドを展開しています。世の中の潮流が、モノ売りからコト売りへと変化しています。

しかし、当社にとって、それは今に始まったわけではありません。私たちもこれまで、きもの（モノ）を手にした先にある楽しい体験（コト）を企画・提案してきました。そういう意味では「心の琴線」に触れる仕事を志してきたことが根底にあります。

一本社エントランスホールに掲げてある「守るな、創れ」のポスターが非常に印象的でした

**阿部** 全国有数の織物産地にあって、十日町は中世から江戸

期にかけてカラムシ（天然纖維の原料となる植物）を原材料にした越後布として知られる麻織物の産地として栄え、その後は絹織物に転換して隆盛を極めました。十日町の特長は、織と染の両方の産地であること。友禅、絞り、草木染など幅広い技術が受け継がれ、様々な商品が生産されています。「日本の伝統文化を守りながら挑戦しなければ、新しい時代の扉は開かない。」という意味を込めています。



## —現在のきもの業界をどうお考えですか

阿部 今般のコロナ禍により和装業界も例外なく大きな打撃を受けています。特に人の動きが止まつた期間の売上高は厳しかつた。これは業界全体にいえるのではないでしょうか。それでも、切り口を多く揃えている当社にはチャンスが残されてると思っています。

「コロナ禍で、催事ができない。「きもの離れ」が進むような

予兆を感じ、「不要不急」という漠然としたイメージがきもの世界に波及する雰囲気があるなどの意見も一部で聞かれます。確かに催事だけでなく、昨年は観光地のきものレンタルを運営する各社は、大半をインバウンドに依存していたため、営業の停止に追い込まれ、今なお営業再開の目途が立たない

店舗や既に閉鎖している店舗など、二転して苦境に陥っています。新型コロナウィルスの感染症拡大に伴い、当社も例外なく大きな打撃を受け、小売店舗の一時休止を余儀なくされました。しかしその方で、グループのこれから命題を改めて考へる良い機会になりました。

## —今後の店舗展開について教えて下さい

阿部 現時点（2020年12月）では、新規出店の予定は

ありません。苦戦がみられる店舗のテコ入れを優先していくます。基本的には、顧客に不便性を感じさせない方針を受けています。特に人の動きが止まつた期間の売上高は厳しかつた。これは業界全体にいえるのではないでしょうか。それでも、切り口を多く揃えている当社にはチャンスが残されてると思っています。

また、当社も定期的に（店外）催事を行つてますが、小売店舗を構える以上、店舗売上が第一優先です。地域の皆様から愛され、当たり前の事を当たり前にやれる昔ながらの呉服店を目指します。今の時代にどのような形で顧客を呼び込めるのか、引き続き良い関係を構築していくたいと考えています。

## —具体的な取り組みとしては、何がありますでしょうか

阿部 「高い、着られない、着ていく場所がない、手入れが大変」というきものの4つのネックを少しでも軽減すべく、問屋直営で上質な商品をできるだけ安価で提供し、店舗で着付け教室や食事会などきものを着て楽しむ催しの企画、自社工場でクリーニング等のメンテナンス対応をするなど、きものをより身近に感じていただくための取り組みを日々展開しています。

きものは、実際に身に付けて普通に歩くことが出来なくては意味がありません。きものは持つても、着て行く場所がないと言う話はよく耳にします。そこで当社では、年代や職業に関係なく、誰もが、もっと気軽に、もっと楽しくきものを着て出掛ける機会を増やそうと思い、きもの爱好者たちが集う愛好会「きもの着る会」を立ち上げています。きものを着る機会の創出を通して、きもの文化の継承発展に貢献したいと考えています。

—直近のアパレル業界では、「パーソナル」がキーワードになっていますが。きもの業界はいかがですか

阿部 現在、当社では「成人式サロンK-iRARA」を開設しています。従来の成人式に代わる新しい成人式のかたちとして家族単位でお祝いする「家族のための成人式」を提案しています。これが、「パーソナル」仕様といえます。成人式は、3密回避のため会場の分散や、野球場など屋外で開催し

た自治体がありました。一方コロナ禍で式典の中止・延期やオンライン式典を実施した自治体もありました。自治体の方針に依存しない新しいタイプの成人式として提案しています。

また、成人式が持つ本来の意味や価値についても提案提供したい。きものだからこそ共感出来るサービスとして、誠意を込めてグループ全体で提案提供に努めています。

## —今第26期の経営方針、そのテーマなどをお聞かせください

阿部 テーマは「勇往邁進（ゆうおうまいしん）」です。創業の原点に立ち返り、使命感を持った経営と、血の通った事業構造の変革を進め、今あるコロナ禍の逆境に立ち向かいます。

業界構造の変革を進め、今あるコロナ禍の逆境に立ち向かいます。どんな困難にも怯むことなく、目的に向かって、勇猛果敢に前へ前へと突き進むことです。

当社は経済産業省から「地域未来牽引企業」として平成29年に認定を受けました。きもの文化の継承・発展に向けて取り組み、将来は株式上場を視野に入れています。日本中が不安と混迷の中にある今だからこそ、堂々と倦まず怯まず、困難に立ち向かい、邁進してゆく所存です。きもの産地、新潟県十日町市発の企業として、和文化の素晴らしさ、和装の魅力をすべての人たちに伝えたいと願っています。十日町は雪深い地域です。雪の結晶には同じ形ものが一つとありません。きものを着られる方の姿も同じです。きものを着られる方がないと言ふ話はよく耳にします。そこで当社では、年代や職業に関係なく、誰もが、もっと気軽に、もっと楽しくきものを着て出掛けける機会を増やそうと思い、きもの爱好者たちが集う愛好会「きもの着る会」を立ち上げています。

—最後に阿部社長が代表で就任された昨年6月設立の「きもの100万人プロジェクト」について聞かせてください

阿部 今般のコロナ禍により和装業界も例外なく大きな打撃を受けています。こんな時だからこそ、業態や業種の垣根を越えてきもの業界が一丸となって、個々の会社の利益に拘らず、きものファンのため、きもの業界のため、きもの文化を次世代へと伝えていくために行動を起こしたい。このような熱い想いを持つた有志の人達によって立ち上げられた組織です。

小売店、問屋、メーカー、その他の和装に関わる各事業者様など、幅広い業態の垣根を越えて、きもの業界全体で和装を盛り上げていきたいと考えています。



株式会社 いつ和

〒 948-0046

新潟県十日町市明石町 6-2

TEL. 025-750-1040 FAX. 025-750-1041

<http://itsuwa-group.jp/>



IMAGINE ONE WORLD イマジンワンワールド

# KIMONO プロジェクト

2020着物に世界を映す展覧会

世界213カ国・地域の KIMONO(振袖・帯)が  
京都市京セラ美術館に集合

各国を映した KIMONO で  
世界が手をつなごう!

2021年夏、  
世界が注目する時、KIMONO を通して  
世界中に平和の願いを届ける。

2020年10月16日～18日、京都市京セラ美術館で「着物に世界を映す展覧会」が開催された。主催は京都工芸染匠協同組合、提供は一般社団法人イマジンワンワールド KIMONO プロジェクト。

東京五輪の2020年を目標に、世界各国の歴史、文化、風景をモチーフにした振袖、帯を日本中の若手から人間国宝級の染元、織元に制作を依頼。2014年のプロジェクト始動から6年の歳月をかけて世界213か国・地域の KIMONO(振袖・帯)を作り上げ、展覧会に至った。

コンセプトは「東京オリンピックの開催は世界から日本が注目される年に間違いない。日本の文化である KIMONO で世界の方々をおもてなしをしたい。参加国の自然や文化を取り入れた美しい KIMONO をそれぞれに制作し、そしてそれが一堂に会し手と手を取り合い、世界が一つになる姿を形にしていき、日本が世界に注目される年に発信したい。」そのため KIMONO の制作にスポンサーを集め、どの国も平等に、1か国の制作費を200万円とした。

このプロジェクトは全国の和装産地が抱える厳しい現状に一筋の光を射した。ある製作者は「これだけ大掛かりなプロジェクトに声をかけていただいたことが光栄だった」と話し、またある作家は「振袖1点に100万円の予算を貰う受注は初めてで創作意欲が湧いた」と話す。結果として、各産地が「まだまだやれる」という気持ちを奮い立たせ、持てる限りの技法を惜しみなく使って作り上げた。その作品は美術工芸品に値するもので後世に残せる貴重なものが数多く生まれ、産地の底力をアピールする絶好の機会となった。

撮影：富島達博

着物：ブルンジ共和国（制作：中川正商店）

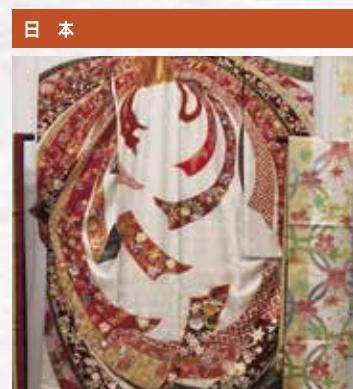




# ASIA アジア大陸



フィリピン共和国  
【着物】中町博志  
【帯】筑前織物



日本  
【着物】千 総  
【帯】龍村美術織物



ラオス人民民主共和国  
【着物】市川純一郎  
【帯】杉村 賢修長谷川



ミャンマー連邦共和国  
【着物】水橋さおり  
【帯】赤松潤一



カンボジア王国  
【着物】宮野勇造  
【帯】龍村美術織物



マレーシア  
【着物】タケハナ染匠  
【帯】服部織物



モルディブ共和国  
【着物】関谷染色  
【帯】新海佳織



スリランカ民主社会主義共和国  
【着物】中町博志  
【帯】おび弘



タイ王国  
【着物】千 総  
【帯】筑前織物



ベトナム社会主義共和国  
【着物】染谷洋  
【帯】服部織物



ホンコン・チャイナ  
【着物】大久保謙一  
【帯】西村織物



チャイニーズ・タイペイ  
【着物】矢花博呂美  
【帯】西村織物



バングラディシュ人民共和国  
【着物】福村健  
【帯】盛かおる



インド  
【着物】大羊居  
【帯】宮岸織物 監修帛継 京都

アフガニスタン・イスラム共和国



パキスタン・イスラム共和国



ネパール連邦民主共和国



ブータン王国

【着物】上田環江  
【帯】渡文東京  
京都【着物】上田環江  
【帯】渡文【着物】杉浦伸  
【帯】りょうこう織物 監修帛撰石川  
京都【着物】兵江美香  
【帯】兵江美香大阪  
大阪【着物】千總  
【帯】西村織物京都  
福岡

ウズベキスタン共和国



カザフスタン共和国



イラン・イスラム共和国



キルギス共和国

【着物】古泉良範  
【帯】斎藤織物 監修帛撰石川  
京都【着物】古泉良範  
【帯】斎藤織物 監修帛撰【着物】町田久美子  
【帯】新海佳織東京  
福岡【着物】高橋貞雄  
【帯】紫絃東京  
京都【着物】毎田仁嗣  
【帯】服部織物石川  
京都

大韓民国



モンゴル国



タジキスタン共和国



トルクメニスタン

【着物】染ぬおかだ岡田赤樹  
【帯】服部織物京都  
京都【着物】染ぬおかだ岡田赤樹  
【帯】服部織物【着物】藤井浩  
【帯】龍村美術織物京都  
京都【着物】森工芸 森健持  
【帯】斎藤織物 監修帛撰京都  
京都【着物】三興染工  
【帯】西村織物京都  
福岡

カタール国



シリア・アラブ共和国



中華人民共和国



朝鮮民主主義人民共和国

【着物】本郷葵虹  
【帯】本郷葵虹京都  
京都【着物】本郷葵虹  
【帯】本郷葵虹【着物】坂井教人  
【帯】おび弘神奈川  
京都【着物】村山刺繡店  
【帯】龍村美術織物京都  
京都【着物】染ぬおかだ岡田赤樹  
【帯】りょうこう織物 監修帛撰京都  
京都

アラブ首長国連邦



【着物】森川雄大  
【帯】服部織物

レバノン共和国



【着物】染匠市川  
【帯】服部織物

クウェート国



【着物】燕木保男  
【帯】龍村美術織物

イエメン共和国



【着物】市村久子  
【帯】古賀陽子

新潟  
福岡

バーレーン王国



【着物】重田由美  
【帯】相澤久美子

ヨルダン・ハシェミット王国



【着物】上田外茂治  
【帯】紫 紗

オマーン国



【着物】眞鍋沙智  
【帯】筑前織物

イラク共和国



【着物】坂井修  
【帯】川島織物セルコン

京都  
京都

インドネシア共和国



【着物】岡 重  
【帯】曾根武勇 藩修角撰 京都

シンガポール共和国



【着物】大瀬商店  
【帯】近藤啓子

パレスチナ



【着物】本間哲哉  
【帯】パレスチナ刺繍帯  
プロジェクト

サウジアラビア王国



【着物】和田全央  
【帯】齊藤織物 藩修角撰 京都

京都  
京都

難民選手団



【着物】小松美羽 制作岡野 福岡  
【帯】小松美羽 制作岡野 福岡

東ティモール民主共和国



【着物】高橋啓  
【帯】紫 紗

ブルネイ・ダルサラーム国



【着物】富宏染工・藤井寛 京都  
【帯】新海佳織 福岡

京都  
福岡



キリバス共和国  
【着物】藍生庵松枝 哲哉  
【帯】遠藤誠一  
福岡



ツバル  
【着物】故 木原明  
【帯】服部織物  
京都



仏領ポリネシア  
【着物】結 project  
【帯】西村織物  
京都  
福岡



米領サモア  
【着物】白木染匠  
【帯】洛陽織物  
京都  
京都



トンガ王国  
【着物】岩間獎  
【帯】おび弘  
埼玉  
京都



マーシャル諸島共和国  
【着物】藤理工芸  
【帯】錦工芸  
監修帛撰  
京都  
京都



パプアニューギニア独立国  
【着物】に志山染匠  
【帯】おび弘  
京都  
京都



ニュージーランド  
【着物】大地佐和子  
【帯】服部織物  
東京  
京都



オーストラリア連邦  
【着物】工芸染匠成謙  
【帯】中居織物  
監修帛撰  
京都  
京都



クック諸島  
【着物】京染せい山  
【帯】龍村美術織物  
京都  
京都



サモア独立国  
【着物】樋口織工藝  
【帯】渡 文  
新潟  
京都



ミクロネシア連邦  
【着物】大橋さやか  
【帯】りょうこう織物  
監修帛撰  
京都



グアム  
【着物】山村省二  
【帯】盛かおる  
福岡



パラオ共和国  
【着物】坂井教人  
【帯】齋藤織物  
監修帛撰  
京都  
神奈川



ニウエ  
【着物】白木染匠 京都  
【帯】りょうこう織物 藩修井撰 京都



ソロモン諸島  
【着物】染匠市川 京都  
【帯】筑前織物 福岡



バヌアツ共和国  
【着物】歛持愛子 埼玉  
【帯】紫絃 京都



フィジー共和国  
【着物】坂井三智子 神奈川  
【帯】西村織物 福岡



アメリカ合衆国  
【着物】成瀬優 東京  
【帯】中居織物 藩修井撰 京都



ナウル共和国  
【着物】岡山工芸 京都  
【帯】りょうこう織物 藩修井撰 京都



コスタリカ共和国  
【着物】城間栄市 沖縄  
【帯】工房真南風 藩修染と琉球藍 沖縄



バミューダ  
【着物】タケハナ染匠 京都  
【帯】川島織物セルコン 京都



カナダ  
【着物】千總 京都  
【帯】小川規三郎 福岡



メキシコ合衆国  
【着物】富久洋 藩修井柄の会 福岡  
【帯】盛かおる 福岡



ケイマン諸島  
【着物】田嶋秀之 石川  
【帯】洛陽織物 京都



ハイチ共和国  
【着物】桑原牧子 千葉  
【帯】桑原牧子 千葉



ドミニカ共和国  
【着物】白木染匠 京都  
【帯】服部織物 京都



ホンジュラス共和国  
【着物】村中 鹿児島  
【帯】岡部由紀子 福岡

グアテマラ共和国



ベリーズ



ジャマイカ



パハマ国



【着物】吉田喜八郎 京都  
【帯】龍村美術織物 京都

【着物】創美清水宗一 東京  
【帯】服部織物 京都

【着物】江上昌幸 東京  
【帯】おび弘 京都

【着物】藤娘きぬたや 愛知  
【帯】筑前織物 福岡

ニカラグア共和国



エルサルバドル共和国



パナマ共和国



キューバ共和国



【着物】辻工芸 京都  
【帯】古賀陽子 福岡

【着物】鶴見晋史 石川  
【帯】宮岸織物 監修帛継 京都

【着物】高平良隆 石川  
【帯】おび弘 京都

【着物】生駒暉夫 東京  
【帯】川島織物セルコン 京都

ボリビア多民族国



バルー共和国



エクアドル共和国



ウルグアイ東方共和国



【着物】高橋啓 京都  
【帯】錦工芸 監修帛継 京都

【着物】野々花染工房 訪問豪一  
【帯】渡 文 山形

【着物】赤地暁 京都  
【帯】西陣まいづる 京都

【着物】菅原高幸 岩手  
【帯】新海佳織 福岡

アルゼンチン共和国



巴拉グアイ共和国



チリ共和国



ブラジル連邦共和国



【着物】柴田織物 &  
丹後織物工業組合 京都  
【帯】民谷螺鈿 京都

【着物】京染せい山 京都  
【帯】紫 紗 京都

【着物】松島由美 京都  
【帯】服部織物 京都

【着物】千 總 京都  
【帯】龍村美術織物 京都



英領バージン諸島  
【着物】高田克也 石川  
【帯】りょうこう織物 藩修帛撰 京都



アンティグア・バーブーダ  
【着物】こんや 【帯】遠藤誠一



grenada  
【着物】五月女綾  
【帯】古賀陽子



トリニダード・トバゴ共和国  
【着物】井口孝枝 千葉  
【帯】西陣まいづる 京都



バルバドス  
【着物】篠原清治 千葉  
【帯】筑前織物 福岡



ドミニカ国  
【着物】廣瀬雄一 東京  
【帯】筑前織物 福岡



プエルトリコ  
【着物】濱本拡玄 京都  
【帯】織匠万勝 京都



セントクリストファー・ネービス  
【着物】加藤弥生 京都  
【帯】森紗恵子 京都



バージン諸島  
【着物】古泉良範 石川  
【帯】西山産業 石川



セントルシア  
【着物】に志山染匠 京都  
【帯】織匠万勝 京都



セントビンセント・グレナディーン諸島  
【着物】奥野むつみ 京都  
【帯】新里玲子 沖縄



アルバ  
【着物】佐藤賢一 石川  
【帯】西村織物 福岡



スリナム共和国  
【着物】市川純一郎 京都  
【帯】筑前織物 福岡



ガイアナ共和国  
【着物】染の三喜 京都  
【帯】近藤啓子 福岡



ベネズエラ・ボリバル共和国  
【着物】紺野貞子 東京  
【帯】川島織物セルコン 京都



コロンビア共和国  
【着物】藤娘きぬたや 愛知  
【帯】服部織物 京都

チャド共和国



【着物】高田克也  
【帯】服部織物

モーリタニア・イスラム共和国



石川 【着物】遠藤あけみ  
【帯】服部織物

# AFRICA アフリカ大陸



リベリア共和国



【着物】市川純一郎  
【帯】おび弘

シエラレオネ共和国



【着物】佐藤洋宜  
【帯】渡文

セネガル共和国



【着物】大羊居  
【帯】服部織物

マリ共和国



【着物】藤娘きぬたや  
【帯】おび弘

カメルーン共和国



【着物】藤理工芸  
【帯】西陣まいづる

ナイジェリア連邦共和国



【着物】あめや藤本  
【帯】盡政

モザンビーク共和国



【着物】佐野染匠  
【帯】おび弘

ガーナ共和国



【着物】久野織物  
【帯】新海佳織

コンゴ民主共和国



【着物】染工おかだ  
【帯】洛陽織物

コンゴ共和国



【着物】結 project  
【帯】おび弘

アンゴラ共和国



【着物】本郷大田子  
【帯】洛陽織物

コートジボワール共和国



【着物】富宏染工藤井寛  
【帯】おび弘



エチオピア連邦民主共和国  
【着物】染の利へ以  
【帯】龍村美術織物  
京都 京都



ガボン共和国  
【着物】高尾工芸  
【帯】おび弘  
京都 京都



ソマリア連邦共和国  
【着物】山田武志  
【帯】今河織物 藍修帛撰  
石川 京都



ジブチ共和国  
【着物】染の利へ以  
【帯】タケハナ染匠  
京都 京都



モーリシャス共和国  
【着物】伊藤幽水  
【帯】筑前織物  
東京 福岡



コモロ連合  
【着物】岡山工芸  
【帯】龍村美術織物  
京都 京都



マダガスカル共和国  
【着物】タケハナ染匠  
【帯】龍村美術織物  
京都 京都



エリトリア国  
【着物】白木染匠  
【帯】おび弘  
京都 京都



ケニア共和国  
【着物】新田源太郎  
【帯】渡 文  
山形 京都



タンザニア連合共和国  
【着物】中江絹織物 鹿児島  
【帯】斎藤織物 藍修帛撰  
京都



セーシェル共和国  
【着物】白石麻衣  
【帯】岡部由紀子  
大阪 福岡



ナミビア共和国  
【着物】志々目哲也  
【帯】川島織物セルコン  
石川 京都



レソト王国  
【着物】大野深雪  
【帯】錦工芸 藍修帛撰  
神奈川 京都



南アフリカ共和国  
【着物】松田徳通  
【帯】衣扇四條庵  
京都 京都



エスワティニ王国  
【着物】三興染工  
【帯】渡 文  
京都 京都



中央アフリカ共和国  
【着物】前田紬工芸 前田圭祐 鹿児島  
【帯】りょうこう織物 藍修帛撰  
京都 京都

ブルンジ共和国



ボツワナ共和国



ルワンダ共和国



ザンビア共和国



 【着物】中川正商店 京都  
【帯】龍村美術織物 京都

 【着物】高尾工芸 京都  
【帯】龍村美術織物 京都

 【着物】工房まどか 大秦參男 東京  
【帯】辻梅櫻業店 藪修大秦英理子 京都

 【着物】藤井裕也 京都  
【帯】石川つづれ 京都

ブルキナファソ



マラウイ共和国



ジンバブエ共和国



ウガンダ共和国



 【着物】木村染匠 京都  
【帯】おび弘 京都

 【着物】古根香 京都  
【帯】洛陽織物 長野

 【着物】吉川染匠 京都  
【帯】おび弘 京都

 【着物】千 總 京都  
【帯】川島織物セルコン 京都

トーゴ共和国



ギニアビサウ共和国



赤道ギニア共和国



サン Tome・プリンシペ民主共和国



 【着物】佐藤泰子 東京  
【帯】和工房明月 デザイン佐藤泰子 京都

 【着物】上仲正茂 京都  
【帯】服部織物 京都

 【着物】柚野久美子 石川  
【帯】新海佳織 福岡

 【着物】木村染匠 京都  
【帯】龍村美術織物 京都

ギニア共和国



ガンビア共和国



カーボベルデ共和国



ベナン共和国



 【着物】工房まどか 大秦參男 京都  
【帯】辻梅櫻業店 藩修大秦英理子 京都

 【着物】松田徳通 京都  
【帯】川島織物セルコン 京都

 【着物】結 project 京都  
【帯】服部織物 京都

 【着物】京染せい山 京都  
【帯】渡 文 京都

<b>アルジェリア民主人民共和国</b>	<b>モロッコ王国</b>	<b>チュニジア共和国</b>	<b>ニジェール共和国</b>
			
<b>【着物】藤理工芸</b> <b>【帯】おび弘</b> 	<b>【着物】大村幸太郎</b> <b>【帯】服部織物</b> 	<b>【着物】白坂幸蔵</b> <b>【帯】渡文</b> 	<b>【着物】本田早苗</b> <b>【帯】龍村美術織物</b> 
<b>エジプト・アラブ共和国</b>	<b>スーダン共和国</b>	<b>南スーダン共和国</b>	<b>リビア</b>
			
<b>【着物】福村廣利</b> <b>【帯】石川つづれ</b> 	<b>【着物】上村米重</b> <b>【帯】川島織物セルコン</b> 	<b>【着物】窪田織物</b> <b>【帯】龍村美術織物</b> 	<b>【着物】柿本結一</b> <b>【帯】宮岸織物</b> <small>監修帛撰</small> 
<b>パチカン</b>	<b>フランス共和国</b>	<b>EUROPA ヨーロッパ大陸</b>	
		 <b>EUROPA</b> <b>ヨーロッパ大陸</b>	
<b>【着物】千總</b> <b>【帯】龍村美術織物</b> 	<b>【着物】春日井路子</b> <b>【帯】龍村美術織物</b> 		
<b>ギリシャ共和国</b>	<b>マルタ共和国</b>	<b>サンマリノ共和国</b>	<b>イタリア共和国</b>
			
<b>【着物】坂原栄</b> <b>【帯】渡文</b> 	<b>【着物】白川孝監修 創作ものほか</b> <b>【帯】服部織物</b> 	<b>【着物】染糸おかだ</b> <b>【帯】神宮司織物</b> <small>監修帛撰</small> 	<b>【着物】工芸染匠成謙</b> <b>【帯】龍村美術織物</b> 

アンドラ公国



チェコ共和国



モナコ公国



キプロス共和国



【着物】茶谷孝志 石川  
【帯】中居織物 藤修郎撰 京都

【着物】千 総 京都  
【帯】川島織物セルコン 京都

【着物】宮崎桂子 東京  
【帯】川島織物セルコン 京都

【着物】塚田忠夫 東京  
【帯】筑前織物 福岡

ウェールズ



スコットランド



ブルガリア共和国



オーストリア共和国



【着物】染匠まつもと 京都  
【帯】吉川染匠 京都

【着物】白木染匠 京都  
【帯】絹 美 京都

【着物】飯島武文 東京  
【帯】新海佳織 福岡

【着物】染匠市川 京都  
【帯】龍村美術織物 京都

スロバキア共和国



ポーランド共和国



イスラエル国



英 国（グレートブリテン及び北アイルランド連合王国）



【着物】杉村典重 石川  
【帯】おび弘 京都

【着物】有馬国雄 群馬  
【帯】白綾苑大庭 藤修長谷川 京都

【着物】秋山章 京都  
【帯】紫 紗 京都

【着物】眞鍋沙智 京都  
【帯】紫 紗 京都

リヒテンシュタイン公国



ルーマニア



アイルランド



イングランド



【着物】あをい染所 京都  
【帯】筑前織物 福岡

【着物】高尾工芸 京都  
【帯】舛屋高尾 京都

【着物】岡山工芸 京都  
【帯】神宮司織物 藤修郎撰 京都

【着物】関谷染色 京都  
【帯】タケハナ染匠 京都



スロベニア共和国



【着物】水橋さおり

神奈川  
京都

【帯】服部織物

アルメニア共和国



【着物】木村染匠

京都  
福岡

【帯】近藤啓子

コソボ共和国



【着物】河村尚江

岐阜  
福岡

【帯】古賀陽子

ボスニア・ヘルツェゴビナ



【着物】玉那霸有勝

沖縄

【帯】丸正織物工房 大城幸司

モンテネグロ



【着物】田中順子

東京  
京都

【帯】絹 美

北マケドニア共和国



【着物】あをい染所

京都  
京都

【帯】服部織物

セルビア共和国



【着物】京都伝統工芸大学校 京都

【帯】龍村美術織物 京都

クロアチア共和国



【着物】青 柳

新潟  
京都

【帯】織匠万勝

ウクライナ



【着物】太田正伸

石川  
京都

【帯】西陣まいづる

ベラルーシ共和国



【着物】奥野むつみ

京都  
福岡

【帯】新海佳織

モルドバ共和国



【着物】吉川染匠

京都  
福岡

【帯】岡部由紀子

アルバニア共和国



【着物】石田巳代治

石川  
京都

【帯】龍村美術織物

スペイン王国



【着物】小倉淳史

京都

【帯】川島織物セルコン

アゼルバイジャン共和国



【着物】森川明洋

東京  
京都

【帯】紫 紗

ジョージア



【着物】工房真朱 中来田万里

京都

【帯】工房真朱 山下普子

ロシア連邦



【着物】小島敏男 制作協力 松田徳通

京都

【帯】おび弘